

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	リハビリ発達支援ルームUTキッズ大和高田		
○保護者評価実施期間	2025年1月4日		2025年1月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2025年1月20日		2025年2月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 17日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様一人ひとりに寄り添った支援の提供	お子様や保護者様のニーズを踏まえた計画書や療育の提供を行っています。楽しく活動する中での積み重ねが「やったらできた」に繋がるよう療育の提供をしています。	職員間での情報共有の充実から、お子様一人ひとりの課題に寄り添える支援が提供出来るよう努める。
2	多職種連携での支援	作業療法士・保育士が個別支援計画書を基にそれぞれの視点や強みを生かした療育の提供を行っています。	考えが凝り固まらないよう、事業所内研修を通して療育の質の向上へ向けての努力をします。
3	保護者様とのお子様に関する情報共有	保護者様への声掛けを行い、気軽に相談できる雰囲気作り。	保護者様でお悩み相談会などがイベントで開催出来ればと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用開始に時間がかかってしまう(待機児童が多い)	利用を希望して頂いても、待機待ちになり何年も待っていたりしている状態。	未就学児には、空き枠提示を行い少しでも早く利用して頂けるよう努めます。
2	イベント開催にあたり内容の充実さ	職員に限られている為、事業所内での開催になってきている。	畑を借りているので、収穫体験や内容の幅が広がれば考える。
3	入口から保護者室までの距離	入れ替え時混雑してしまう事が多い。	5分前には振り返り終了意識。(状況により) 入れ替え時混雑の際は、一度療育室に入ってもらおう等を行えるようにする。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 リハビリ発達支援ルームUTキッズ大和高田

公表日 2025年 3月 17日

利用児童数 34 回収数 12

	チェック項目	利用児童数				ご意見	ご意見を踏まえた対応	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない			
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12						
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	12						
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12						
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12						
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12						
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11			1			
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12						
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11			1			
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12						
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12						
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域での子どもと活動する機会がありますか。	7	2		3			
	保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12					
		13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11	1				
		14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11			1		
		15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共理解ができていますか。	12					
16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。		11			1			
17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。		12						
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		9	1		2			
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。		10	1		1			
20 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。		12						
21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。		8			4			
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12							
非常 時 等 の 対 応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9			3			
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7			5			
	25 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10			2			
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9	1		2			
満 足 度	27 子どもは安心感をもって通所していますか。	12						
	28 子どもは通所を楽しみにしていますか。	11		1		・UTに行くよと言うと目を輝かせて準備をします。 ・引き続き、楽しんで活動してもらおう中で、「出来た」が聴えるよう努めます。		
	29 事業所の支援に満足していますか。	12				・いつも感謝しています。ありがとうございます。 ・子どもが大変楽しく通っており、私も子どもも大好きな場所です。今年度もよろしくお願ひします。 ・引き続き、お子様の成長のお手伝い出来る場所・保護者様が安心して相談出来る場所作りに職員一同努めます。		

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	リハビリ発達支援ルームUTキッズ大和高田			公表日	2025年 3月 17日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		定期的に備品整理に努めています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1		人員確保
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		玄関・トイレなどバリアフリー化しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		某空気清浄機導入。 日頃より清潔に保つよう努力しています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		マットで仕切りを行っています。 お子様の状況によって相談室を利用しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1	事業所目標で前期・中期・後期で振り返りを行っています。 少しの時間を見つけて話し合いを行っています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	アンケート調査結果を受けて改善を行います。 イベント評価は職員で評価・反省を行っています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	全体を通しての話し合いの時間を取る事が少ないのが現状です。 個々での話になってしまっています。	少しでも全職員が揃う日を作り、話し合い出来る時間の確保を行いたいと思います。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3	第三者評価は行われていません。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		研修は共有されています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1	5領域プログラムの公表はされています。	全職員が5領域の縦線プログラムを把握できるよう共有していきます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4	1	お子様の事に対して、保護者様から聞き取りを行い、お子様のニーズに沿った支援計画を作成しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	1	計画書を作成する中で、気になる事がある場合は、職員間での意見の出し合い目標・課題の情報共有を行っています。 話し合いの時間が更に作れるようにしたいです。	モニタリングアンケート・療育内容を基に計画書作成を行っています。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		パソコンかやファイルからいつでも確認できるようになっています。 計画書を確認し、計画に沿った支援を行っています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	1		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	2	3	子どものニーズに合わせて活動内容の立案をしています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		職員間で遊びを共有しています。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		小人数での集団は行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	2	出来ていません。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	出来ていません。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		日々記録を通して、次の支援にも活かせるよう努めています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	1	モニタリングは行っていないが、聞き取りシートを使用し見直している。 半年に一度モニタリング用紙をお渡しし、保護者様に現状を書いていただく。	・日々の中で保護者様からの情報収集に努め少しでも反映出来るよう努めます。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	1	現在、管理者のみ参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	2	必要に応じて連携をします。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	保護者様から共有をお願いしたり、事業所への見学対応も行っています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	3	必要な場合は、保護者様を通じて行っています。	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	2	外部の助言を受ける機会はないです。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		5	交流する機会は特にないです。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		来所持・フィードバックの際、共通理解できるようにしています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	事業所内での研修は1度しか出来ていませんが、SNSなどでの情報提供は行っています。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約の際説明するようにしています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		モニタリング用紙にて聞き取りを行い、計画書の作成をしています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		こちらからの声掛けでの実施もあります。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1	イベントにて保護者様のみの茶話会で交流機会を提供しています。きょうだい同士での交流会は難しい状況です。	・継続的に出来ないのが現状の為、機会を増やしていければと考えます。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		話をしっかりと聞き、相談後に職員間で共有しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		Instagramで定期的に発信しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		鍵のかかる場所で保管しています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		ラミネートを作成し、視覚的に提示しています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1	マニュアルで自身の役割を確認し、訓練に参加計画を立てて訓練し、実施した内容の掲示をしています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		計画を立てて訓練を実施しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		契約時・利用登録書を確認し把握するようにしています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	2	指示書の提示は行っていないが、おやつ提供時。保護者様に細かく確認し、声掛けを行っています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		計画を立てて訓練を実施しています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1	避難経路を保護者室に掲示しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1	ヒヤリハットが起こった時に協議をし、再発防止に努めています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		研修を行っています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		契約時に説明するようにしています。		